

授業科目名	開講年次	開講学期	講義種類	単位数	担当教員名
保育実習Ⅱ	2	前期	実習	2	呉屋 奈都子

○授業の到達目標及びテーマ

- ・ 保育所の役割や機能について、具体的実践を通して理解を深められている。
- ・ 子どもの観察や子どもとの関わりの視点を明確化することにより、保育の理解を深められている。
- ・ 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子ども理解、子どもの保育及び保護者支援について、総合的に理解している。
- ・ 保育計画の立案、実践、記録などの振り返り及び自己評価について、実践に結びつけて理解を深められている。
- ・ 実習における自己課題を明確化し、保育実習Ⅱに臨む。

○授業の概要

保育所保育指針を、具体的実践から総合的に理解する。保育所の役割や機能の具体的展開を理解する。その中で、観察に基づく保育を理解しながら、保育、保護者、家庭への支援と地域社会との連携、保育士の業務と職業倫理について理解を深める。記録、指導計画の作成、実践、実習における自己課題を明確化する。

○授業計画

【事前学修】

- ・ シラバスを確認して、保育実習Ⅰを省察し、援助の方法で気をつけなくてはいけない点について熟慮し、子どもを観察することの意味を考察する。
 - ・ 保育所での生活の流れ（午前・午後）をイメージして、遊び込める環境と、また、地球人としてSDGSを意識した素材遊びを選びを考え、自然への畏敬の念より季節の曲を歌唱する。
 - ・ 人権についての法律を調べ、保育士の倫理観について子どもをめぐる社会課題について更に調べる。
 - ・ 保育園が地域と連携することで得る恵みと子育て支援の大きな役割を考察する。
 - ・ 1年生の10日間に重ねて、2年生の10日間の積み上げにより、合計20日間の実習期間を通して、下記の内容について理解する。
- 1 保育実習Ⅰ（保育・施設）の振り返りから、養護と教育が一体となって行われる保育の意味を理解する。
 - 2 保育所の社会的役割と責任を理解すると共に、観察に基づき子どもの心身の状態や活動から子どもを理解する。
 - 3 保育士等の動きや実践を観察することにより、関わり方や援助方法について理解し、保育所における生活の流れや展開を把握し、実践できる事柄を学ぶ。
 - 4 子どもの保育と保護者・家庭への支援と地域社会等との連携を知ることで、入所している子どもの保護者への支援及び地域の子育て家庭への支援を深く理解する。
 - 5 環境構成を通して、生活や遊び込むという意味を総合的に保育実践より学ぶ。
 - 6 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価をすることで、全体的な計画に基づく省察・評価と保育の過程について理解する。
 - 7 保育士の業務と職業倫理、多様な保育の展開と保育士の業務、多様な保育の展開について理解する。
 - 8 自己課題の明確化を行い、保育士を目指す者として、今後の自己課題を探る。

【事後学修】

- ・ 実習Ⅱについての振り返り、子ども、教育に関する法律や守秘義務について、保育士の心身の健康も含めた労働環境について考察し、ノート等にまとめる。
- ・ 朝のお集り、朝おやつの意味、子どもの心身の状態を把握する場面や、関わり方の際に適切な言葉掛けを考察する。

- ・具体的なSDGSを意識した指導案の深い意味と実践を省察し、実習記録に活かす。
- ・保護者支援で一番大切だと考えること、地域の行事についての連携、人の環境で一番大切だと思うことを省察し、ノート等にまとめる。
- ・振り返りの中で、自己課題を解決するための具体的な修正方法を考察し、実習記録を点検し、整え、実習園と本学担当教員に提出する。

○テキスト

『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』大豆生田啓友 渋谷行成 鈴木美枝子 田澤里喜 中央法規
『こどもの権利を大切にする保育』関山浩司 中央法規

各講座に適した絵本

○参考書・参考資料等

「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省．フレーベル館

「保育所保育指針解説」（最新版）厚生労働省．フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省．フレーベル館

○学生に対する評価

実習園からの評価 60% 実習記録 40%